



の いる 風 景

菊地 邦仁 さん



【きくち くにひと さん】北光 41歳

●千歳みどり台シャークス代表

母校の駒澤大学附属岩見沢高等学校では、外野手のレギュラーを獲得。春の甲子園として知られる「選抜高等学校野球大会」に出場した経験を持つ。

「野球をやって良かった」 と思ってくれる子どもを 一人でも多く育てたい

「腰をしつかり落として、捕たらすぐ投げる。よし！ナイスボール」。練習場に響く大きな声の主は、平成27年1月に発足した少年野球チーム「千歳みどり台シャークス」で代表を務める菊地さん。その表情には、笑顔が見える。シャークスの合言葉「必笑」を裏付けるかのように、白球を追う子どもたちの表情も笑顔であふれている。

朝野球チームでピッチャーを務めていた父親の姿を見て育った菊地さんは、小学4年生から野球を始めた。「父の投げる姿が格好良くて、野球を始めました。子どもの頃の夢？もちろんプロ野球選手になることです。小学校の卒業文集にも書きましたから。でも、高校に進学して、1日目の練習で早くも夢が崩れました。ものすごく遠くまでボールを打ったり、投げたりできる選手が一人や二人じゃないですからね。レギュラーになることを第一

の目標にしました」と振り返る。

今から2年ほど前に、高校時代の恩師である野球部の監督と語り合ったとき「そろそろ子どもたちに野球を教えないのか」と言葉をかけられた。

選手を集めること、指導者を確保することなどチームを作る難しさは分かっていたが、「チームを作って、自分を育ててくれた野球に恩返しがない。少しでも野球人口を増やしたい」という気持ちを常に抱いていた。

職場の同僚や近所のお父さんたちと話していくうちに、同じ気持ちを持っていることを知ったことが、チーム発足への足がかりになったという。

「子どもたちにとって、少年野球がゴールではないですから」と菊地さん。中学や高校でも野球を続けてもらえるように「打つ・投げる」の基礎はもちろん、楽しく野球ができるような指導を心がけている。

「上手になる近道は、『楽しく野球

をやること』。楽しいことって、続けたいし、もっとできるようになりたいと思うでしょう。きつい練習も楽しいから乗り越えられる。まずは僕たちに笑顔がないと楽しく野球をすることができないと思う」と笑う。

全道少年軟式野球大会など、全道大会出場という高い目標を掲げながらシャークスの選手は、この1年、練習に励んできた。

「高い目標があれば、やる気につながりますし、達成するためにどのような練習が必要なのかを子どもたち自身が意識してくれる」と菊地さんは言い切る。

「分りやすく教えるにはどうすれば良いか、子どもたちとどのように関われば良いかなど、野球を通じて学ぶことばかりですが、『野球をやった良かった』と思ってくれる子どもを一人でも多く育てていきたい」と今の目標を力強く、そして笑顔で語ってくれた。